

# 学校と家庭の連携に視点を当てた 子育て学習プログラム

来てよかったと喜ばれる  
新しい保護者会



# 子育て学習プログラムの基本的な考え方

## 1 連携に課題を感じていませんか？

例えば、こんなことを感じたことはありませんか？

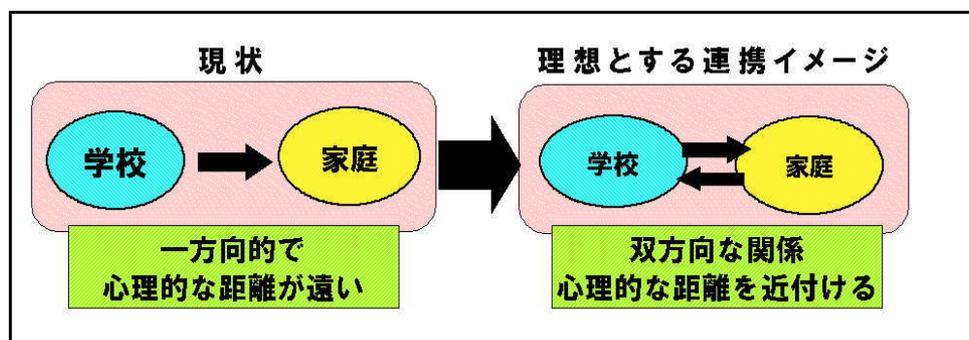


「家庭にはお願いしてるけどなかなかうまくいかない」「よい方法はないかな？」と家庭との連携に課題を感じたら、この子育て学習プログラムを参考にして「新しい保護者会」に取り組んでみましょう。

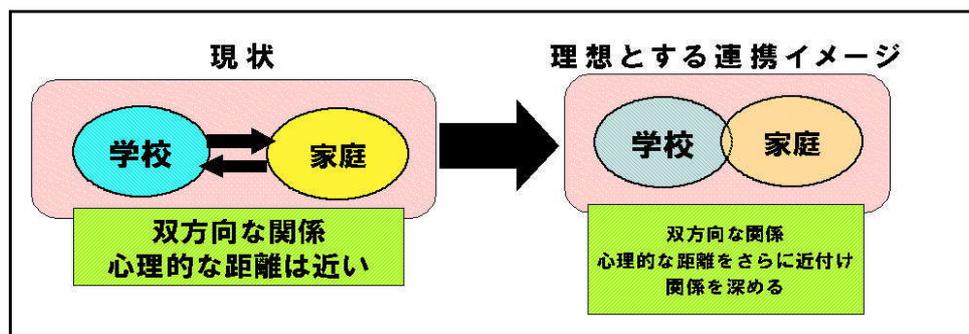
## 2 それぞれの子育て学習プログラムの特徴

学校と家庭の連携の現状は各学校により違います。まず、自分の学校の現状を見つめ直すことが必要です。今回提案する子育て学習プログラムは、それぞれ違った連携の現状から理想とする連携の在り方を求め作られています。

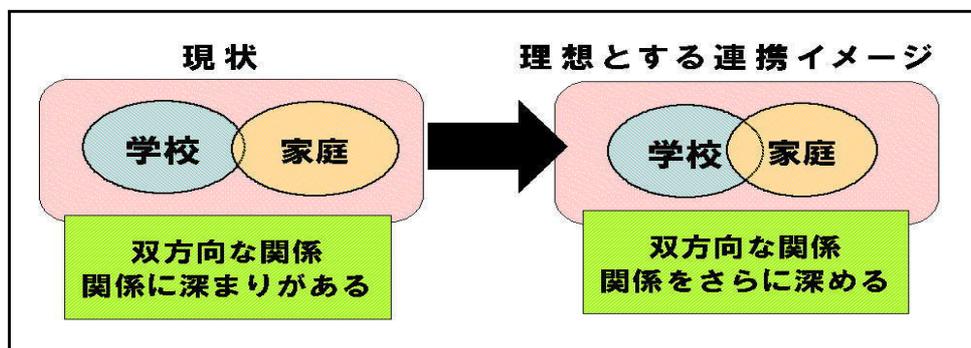
### 0 子育て学習プログラム①



### 0 子育て学習プログラム②



## 0 子育て学習プログラム③



## 3 子育て学習プログラムづくり

それぞれの子育て学習プログラムづくりを行う際に、連携視点を設けました。それぞれの子育て学習プログラムづくりは、連携視点を基に、理想とする連携のイメージを大切にしながら作られています（図1）。テーマの設定も、「実践者の意図」「保護者の悩みや願いの実態」「教師の悩みや願いの実態」から共通性を見だし設定しています（図2）。下記の図1、2を参考にして子育て学習プログラムづくりをしましょう。

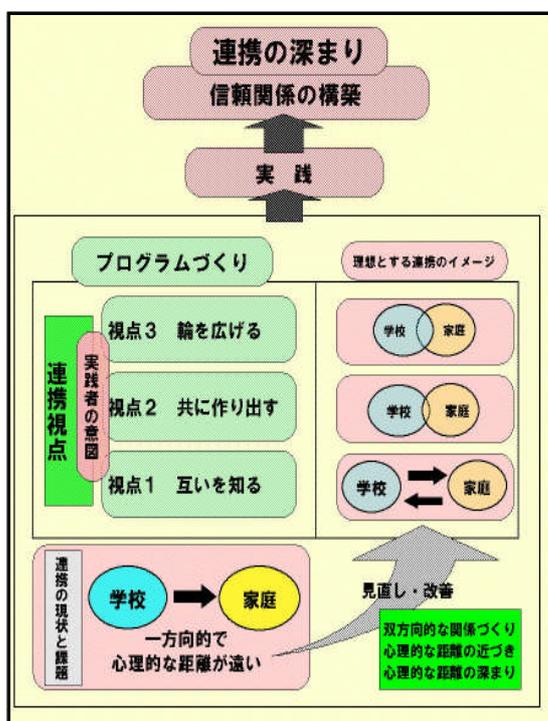


図1 学習プログラムづくり構想図

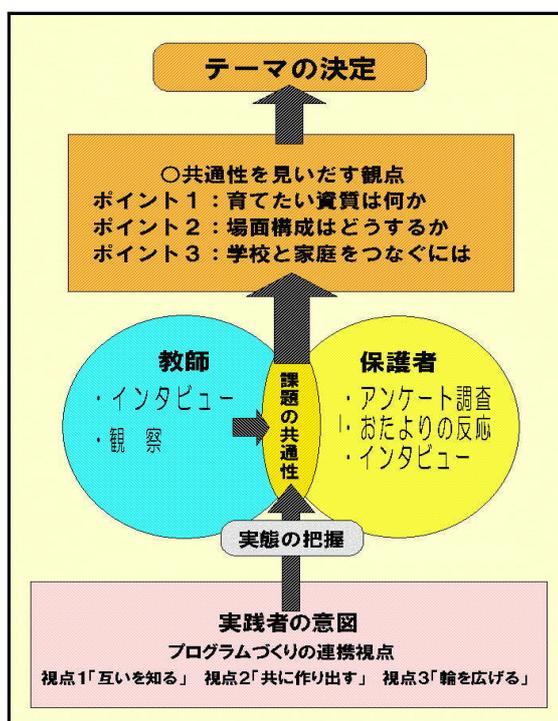


図2 テーマ設定までの流れ

## 連携視点1 互いを知る

### テーマ 「子どもへのかかわり方」



いつだって〇〇は「…」なんだ。

**時間** 90分

**校種と学年** 全学年 **人数(隊形)** 4人以上

**準備** パソコン プロジェクタ 模造紙 ワークシート 振り返りシート マジック ネームプレート

**ねらい** 保護者と児童、教師の実態調査から明らかになった共通の課題から「子どもへのかかわり方」をテーマに保護者会を行う。子どもが、家庭でも学校でも、伸び伸びと安心して生活するために効果的なかかわり方を、疑似体験等を通して学び合うとともに、子どもたちを「共に育てる」という意識を高める。

	活動と保護者・教師の様子	留意点と掲示物等
導入	<p><b>1</b> <b>ねらいと概要の説明</b></p> <p>●「事前アンケートの結果では、『子どもへのかかわり方』に悩みを感じているといった意見がありました。今日は日常生活によくある場面から、子どもの気持ちを大切にする効果的なかかわり方について一緒に考えていきましょう」</p>	<p>◎ スタッフが自己紹介をする。</p>
15分	<p><b>2</b> <b>緊張をほぐすゲーム(「後出しジャンケン」)</b></p> <p>●「最初にゲームをします。『後出しジャンケン』をしましょう」</p> <p><b>3</b> <b>自己紹介(「となりのとなり」)</b></p> <p>●「次に自己紹介をしましょう。『となりのとなり』というやり方で自己紹介しましょう」</p>	<p><b>23</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ T1とT2で見本を見せる。</li> <li>・ 全員で自己紹介をし十分に緊張をほぐすようにする。</li> </ul>
	<p><b>4</b> <b>家庭での子どもの気持ちに添えない場面について役割演技</b></p> <p>●「それでは本題に入ります。まずはじめに、家庭の夕食支度にみられるある場面についてT1とT2で役割演</p>	<p><b>45</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 役割演技後に、パワーポイント(資料1、2)を使って内容を確認する。</li> </ul>

展開  
60分

技しますのでご覧下さい」

**5 学校での子どもの気持ちに添えない場面について役割演技**

- 「次に学校の休み時間にみられるある場面についてT1とT2で役割演技しますのでご覧下さい」
- 『「…」にはどんな言葉が入るでしょうか。考えてみましょう」

**6 ワークシートに、「子どもの気持ちにこたえるかかわり方」を考え記入する**

- 「それでは、『子どもたちの気持ちにこたえるにはどのようなかかわり方がよいか』を考えてワークシートに書きましよう」

**7 記入したことを基に役割演技をする**

- 「それでは、ワークシートに記入したことを基に、T1と役割演技をしてみましよう」

終末  
15分  
**8 まとめ**

- 「本日の活動を振り返ってT2に感想を述べてもらいましょう。いかがでしたか？」

**9 参加者の体験をふり返り、今後について考える**

- 「本日セミナーに参加してみていかがでしたか、活動を振り返って学んだことや新しく気付いたことなど、感想をお書き下さい」



資料1 家庭での場面



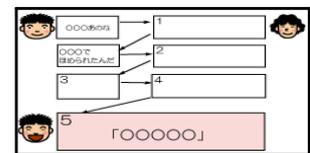
資料2 学校での場面

**5**

- ・ 教師、保護者ともに指名し発表してもらおう。出た意見を板書する。

**6**

- ・ 教師には学校生活での、保護者には家庭での、それぞれの経験を基に書いてもらうようにする。



資料3 ワークシート

**7**

- ・ こちらから指名して、教師からも保護者からも代表者に役割演技をしてもらおう。

**8**

- ・ 共に育てていくという方向に導く。

**9**

- ・ 時間内に書き上がらない場合には持ち帰って書いてよいことを伝える。

# 子育て学習プログラム①

## 成果と留意点

### 実践中のエピソード

活動1では、家庭でも学校でもよくみられる場面を役割演技をした。参加者から「家庭でも学校でもこういうことあるよね」、「子どもに申し訳ないね、かわいそう」などのつぶやきがあった。子どもの気持ちに十分ふれることができる身近な場面設定であった。

活動2では、子どもの気持ちにこたえられる効果的なかわり方を考えて参加者とT1で役割演技をした。ワークシートを活用し「子どもの気持ちにこたえられる効果的なかわり方」について考えたが、なかなか思うように書けない保護者から「ワークシートに沿って書けなくてもいいですか」という質問を受けたので、「自由な発想で考えて書いてください」と答えた。するとたくさん書くことができた。

それを基に参加者とT1で「効果的なかわり方」について役割演技をしたが、「それいいですよ」「家で使ってみよう」などのつぶやきがたくさんあり、思いを共有することができた。

### 実践後の結果

保護者から、「先生方も参加してくれてとても楽しい保護者会でした」「先生は、たくさんの子どもの指導で大変だな」との声が聞かれた。教師からは「家庭での様子が伺えてよかった。子どもへの励まし方が勉強になりました」などの声が聞かれた。初めての試みということで、始めは緊張した表情であったが、終わったときには参加者が笑顔で、保護者と教師の垣根を越えて会話をしている姿が見られた。「先生、楽しかったから次回は友達を連れてきます」と笑顔で話しかける保護者の姿が印象的だった。

### 実践上の留意点

「新しい保護者会」が初めての場合、導入部分でのアイスブレイキングがとても重要なポイントとなる。今回は2種類のエクササイズを取り入れ十分に緊張をほぐす配慮をした。しかし、短時間（60分程度）で実施する場合には、時間配分を考えて、「本題にあまり時間がかけられなくなってしまう」ということにならないように注意したい。

# 子どもの気持ちに添えない学校での、家庭でのある場面

子どもの気持ちに添えない学校でのある場面



先生、あのね

➡

ごめんね。今忙しいんだよ

⚡

さっき、校長先生に、ほめられたんだよ

➡

よかったね

⚡

え、それだけ。もっと話を聞いてよ

➡

ごめんね。本当に忙しいんだ。あとで話を聞くね

⚡



いつだって先生は「…」なんだ



子どもの気持ちに添えない家庭でのある場面



お母さん、あのね

➡

今忙しいからあとでもいい

⚡

学校ですごくほめられたんだよ

➡

よかったね

⚡

え、それだけ。もっと話を聞いてよ

➡

うるさいわね。忙しいって言うてるでしょ。あとにしてちょうだい

⚡



いつだってお母さんは「…」なんだ



## 子どもの気持ちにこたえる効果的なかわり方を考えるワークシート

ワークシート お名前 ( )



〇〇〇あのね

1



〇〇〇で  
ほめられたんだ

2

3

4



5

「〇〇〇〇〇〇」

1. □1～□4の中に「自分ならこうする」というかわり方を書いてみましょう。  
(直接書き込んでください。)
2. □5の「〇〇〇〇〇〇」には子どもの気持ちを表す言葉が入ります。どんな気持ちになったでしょうか。下の枠の中に書いてみましょう。



3. 「参考になるかわり方」や「新しい気付き」がありましたか。書いてみましょう。



## 連携視点2 共に作り出す

### テーマ やる気を育てるかかわり方 —宿題に視点を当てて—



**時間** 90分

**校種と学年** 全学年 **人数(隊形)** 4人以上 (1グループ 4~6人)

**準備** パソコン プロジェクタ ワークシート 振り返りシート マジックペン ネームプレート 付せん紙 やる気シート

**ねらい** 保護者と児童、教師の実態調査から明らかになった共通の課題から、宿題に視点を当てて「やる気を育てるかかわり方」をテーマに保護者会を行う。宿題の目的やねらい・効果を理解し、よりよい子どもの成長を促すために、体験的な活動を通して考え、具体的なかかわり方を共に作り出す。

	活動と保護者・教師の様子	留意点と掲示物等
導入 15分	<p><b>1 ねらいと概要の説明</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「事前アンケートの結果では、『どのように子どもにやる気を育てたらよいか悩んでいる』といった意見がありました。今日は宿題に視点を当てて、やる気を育てる効果的なかかわり方について一緒に考えていきましょう」</li> </ul> <p><b>2 緊張をほぐすゲームを兼ねて自己紹介「私は誰でしょう」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「それでは、みなさん一人一人に先ほど書いていただいた自己紹介文を読み上げますので、どなたの自己紹介文かを当ててみましょう」</li> </ul>	<p>◎ スタッフが自己紹介をする。</p> <p><b>2</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ネームプレートを利用し、表は「名前」裏は「自己紹介文」を書かせる。</li> <li>・ 裏面の自己紹介文は数パターン考えておく。</li> <li>・ 全員で自己紹介をし十分に緊張をほぐすようにする。</li> </ul>
展開 60分	<p><b>3 家庭での「宿題をめぐるやりとりの場面」の役割演技</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「それでは本題に入ります。まずはじめに家庭での『宿題をめぐるやりとり』をT1とT2で役割演技しますのでご覧下さい」</li> </ul> <p><b>4 学校での「宿題をめぐるやりとりの場面」の役割演技</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「次に学校での『宿題をめぐるやりとり』をT1とT2で役割演技しますのでご覧下さい」</li> </ul> <p><b>5 宿題について考え、その重要性について理解する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「お配りしたワークシートに、先ほど確認した画面(資</li> </ul>	<p><b>34</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 役割演技後に、パワーポイント(資料1、2)を使って内容を確認する。</li> </ul> <div data-bbox="1077 1736 1412 1948" data-label="Image"> </div> <p>資料1 家庭での場面</p>

料1・2)と同じ絵が描かれています。『う～ん、それはね』の後の「…」に当てはまる言葉(せりふ)について考え、ワークシートに書きましょう」



資料2 学校での場面

**6 やる気を育てるかかわり方について考える**

- 「それでは、宿題の「内容と量」、「時間」、「具体的な手だて」を意識して、やる気を育てるかかわり方について考え、ワークシートに書いてみましょう」

**7 グループごとに考えを「やる気を育てるかかわり方シート」にまとめる**

- 「一人一人考えたことをグループ内で話し合って『やる気を育てるかかわり方シート』にまとめていきましょう」

- 「それでは、グループごとに、どんな『やる気を育てるかかわり方シート』ができあがりましたか？」

「～さんお願いします」

**5**

- ・ 保護者は宿題についてどうとらえているか、また、教師はどうとらえているか、それぞれの立場から意見を引き出し黒板にまとめる。

**7**

- ・ グループで意見を整理させる。(KJ法)
- ・ 「やる気を育てるかかわり方シート」(資料3)を各グループに配布する。その際にKJ法について説明する。



資料3 やる気を育てるかかわり方シート

- ・ 各自がまとめたかかわり方を発表し合い、用紙に貼らせる。
- ・ グループ分けは、教師と保護者が混合するように意図的に分ける。
- ・ 活動が始める前に、活動後に発表してもらうことを伝え、代表者を選んでもらうように指示する。

終末

15分

**8 まとめ**

- 「本日の活動を振り返ってT2に感想を述べてもらいましょう。いかがでしたか？」

**9 参加者の体験をふり返し、今後について考える**

- 「本日セミナーに参加してみているかがでしたか、活動を振り返って学んだことや新しく気付いたことなど、感想をお書き下さい」

**8**

- ・ 子どもの成長を共に支えていくために、学校と家庭をつなぐものについて、学校と家庭で共に考えていくことが大切であることをおさえる。

**9**

- ・ 時間内に書き上がらない場合には持ち帰って書いてよいことを伝える。

## 子育て学習プログラム②

### 成果と留意点

#### 実践中のエピソード

活動1では、T1、T2の役割演技を見て、宿題の持つ意義や目的・ねらいについて考える。役割演技後に、「宿題ってなんですかね」と問いかけると、参加者から「学力の定着や向上」という答えが返ってきた。T1が「実は宿題には親子のコミュニケーションや人間形成にも効果があると言われていました」と参加者に話すと、「宿題って大切なんだね」とか「宿題を自主的にこなせることが大切だね」というつぶやきがあった。宿題の重要性を知る効果的な活動であった。

活動2では、やる気を育てるかわり方を考え、「やる気を育てるかわり方シート」をみんなで作った。参加者一人一人が、経験を基に「やる気を育てる効果的なかわり方」をたくさん考えることができた。シートにまとめる活動では、「それ効果あるよ」、「家に帰って早速試してみよう」など、一人一人の意見に対して盛り上がりを見せた。シートにまとめられた「効果的なかわり方」は今後の子どもの成長を支えるために参考になる提案がたくさんあった。

#### 実践後の結果

保護者会が始まる前から、保護者と教師が笑顔で会話をする和やかな雰囲気があった。アイスブレイキングでさらにお互いの心理的な距離が近付いた。保護者と教師で、共に考え作り出すという経験がこれまでにあまりない学校での実践。保護者からは「先生と一緒に考えてくれるなんて初めてでとてもうれしかった」との声が寄せられた。教師からは「保護者の考えが分かったことで、これからの指導に生かせる」「保護者の気持ちが分かった気がする」などの話が聞かれた。今回の実践で互いの考え方に共感し相手の立場に立って物事を考えることの大切さを学んだ。

#### 実践上の留意点

今回はアイスブレイキングに「私は誰でしょう」という自己紹介の仕方を取り入れてみた。ネームプレートの裏面に、「私の趣味は……」や「私の好きなスポーツは……」というように、リード文をあらかじめ書いておいて、続きの文を完成させる工夫をした。しかし、プライベートなことなので、事前に参加者の方に書いてもらえるかを確認することが必要である。

# 宿題をめぐる学校での家庭での場面

宿題をめぐる学校でのやりとり




今日の宿題は算プリ3枚ね

みんななら大丈夫！すぐ終わっちゃうからがんばって！

ダメダメ、泣き言言ってないでがんばろう！

→

↙

→

↙

→

↙

え～、先生多いよ

お願いします。せめて1枚減らしてよ

先生、何で宿題なんてあるの？学校の勉強だけじゃダメなの？ねえ先生、教えてよ！



う～ん、それはね「……………」

宿題をめぐる家庭でのやりとり




宿題は？

あとなんて言ってないで今やいなさい

聞いているの！

→

↙

→

↙

→

↙

あとでやる

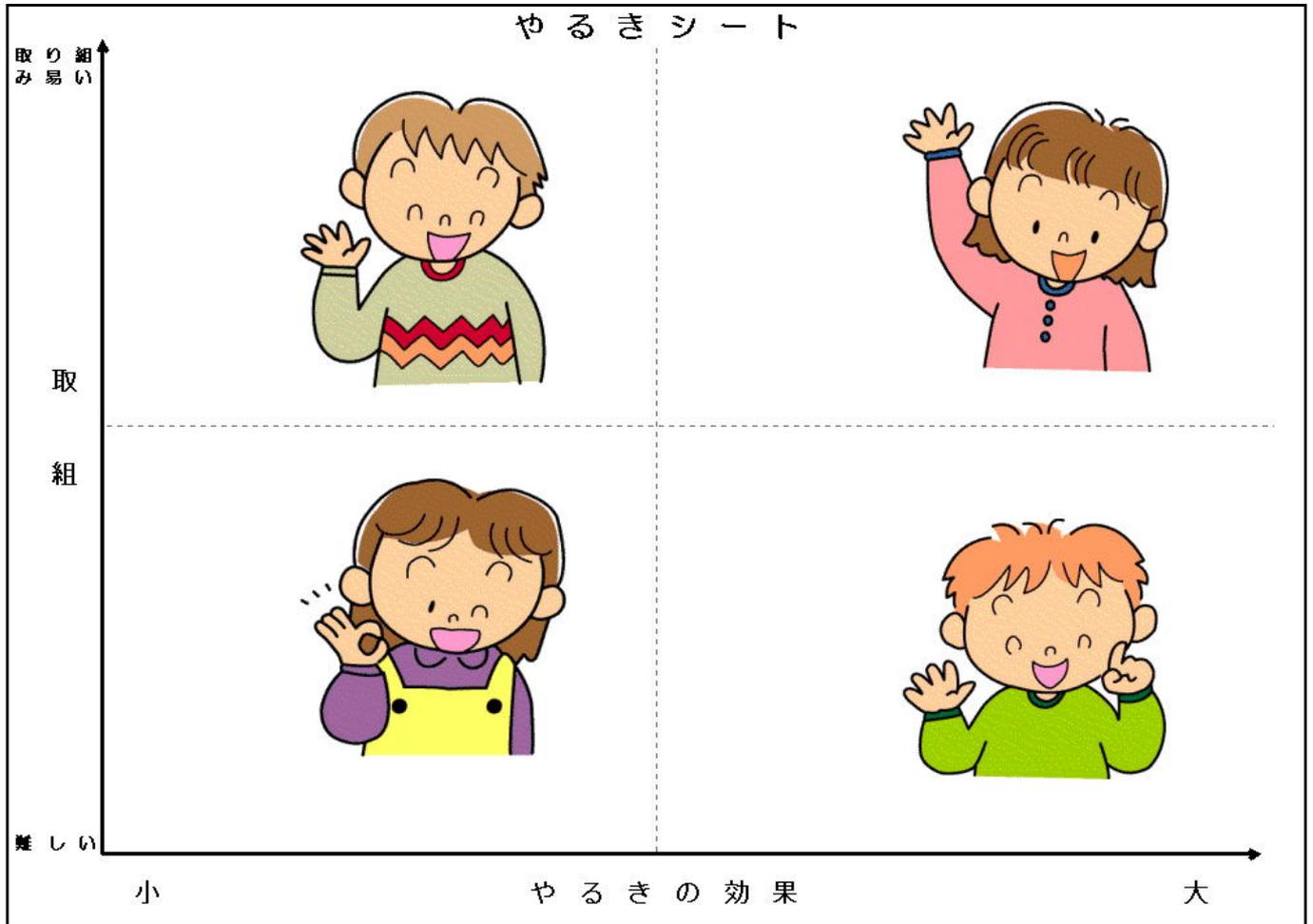
……………

聞いているよ。でも何で宿題しなくちゃいけないの？学校の勉強だけじゃダメなの？ねえお母さん、教えてよ！



う～ん、それはね「……………」

# やる気を育てるかわり方シート



※ 拡大してお使い下さい。

## やる気を育てるかかわり方を考えるワークシート

ワークシート お名前 ( )

Q 1

「・・・」の中には、どんな言葉（せりふ）が当てはまりますか。  
考えて下の枠の中に言葉（せりふ）を入れましょう。

※ 考えられるものすべて書いてみましょう。

Q 2

子どもの「やる気を育てるかかわり方」について考えましょう。

### めざす子ども像は「言われなくてもすすんでできる子」

次の3点を考えて、子どもをやる気にさせてみて下さい。

1. 宿題の内容や量
  2. 宿題をこなす時間は
  3. やる気を育てる具体的な手だて
- 注意) 1～3の要素を全部取り入れる必要もありません。例えば1と3、2と3の組み合わせなんかも考えられますよね。自由な発想で考えてみてください。**

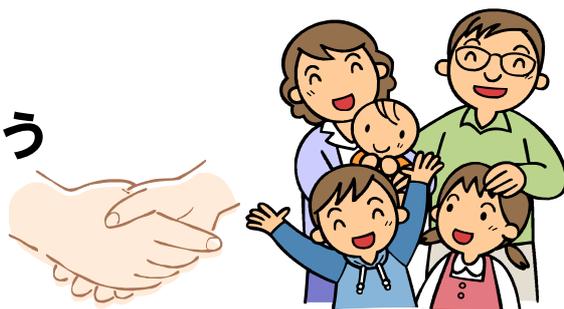
【かかわり方の例】

「カタカナの「ア」と「イ」と「ウ」の文字を、それぞれ3行ずつ練習しましょう。」という宿題が出たとき、その倍の量の学習を、子どもができたときにはキャッチボールをしてあげる。



# 視点3 輪を広げる

## テーマ 「つなげよう 広げよう 子育ての輪」



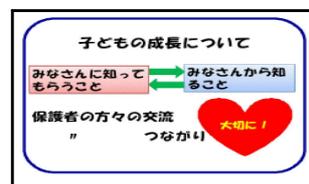
**時間** 90分

**校種と学年** 全学年 **人数(隊形)** 4人以上

**準備** パソコン プロジェクタ ワークシート 振り返りシート ネームプレート マジックペン 画板 筆記用具(鉛筆)

**ねらい** 保護者と児童、教師の実態調査から明らかになった共通の課題から、「つながり」「連携」をテーマに保護者会を行う。保護者同士はもとより、学校と家庭とのつながりは、子どもの成長を支えるために重要であるということを経験的な活動を通して考える。

	活動と保護者・教師の様子	留意点と掲示物等
導入 15分	<p><b>1 ねらいと概要の説明</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「事前アンケートの結果では、『たくさんの方々と子育てについて話をしたい』といった意見がありました。今日は『子どもの成長』を題材にして、意見の交流をしながら子育てについて一緒に考えていきましょう」</li> </ul> <p><b>2 緊張をほぐすゲーム(「バースデーチェーン」)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「最初にゲームをします。『バースデーチェーン』をしましょう」</li> </ul>	<p>◎ スタッフが自己紹介をする。</p> <p><b>2</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ T1とT2で見本を見せる。</li> <li>・ 全員で自己紹介を十分に緊張をほぐすようにする。</li> </ul>
展開 60分	<p><b>3 子どもの成長について考え話し合う</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「それでは本題に入ります。まずはじめにワークシートに子どもの成長について実感していることを2～3書きましょう」</li> <li>●「ワークシートに書いたことを近くの人と話し合ってみましょう」</li> <li>●「話し合ってみていかがでしたか。感想を聞かせてください」</li> </ul> <p><b>4 保護者間のつながりの大切さについてふれる</b></p>	<p><b>3</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3～4人で話し合えるように、あらかじめ椅子の配置を考えて設置しておく。</li> </ul> <p><b>4</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ パワーポイント(資料1)を活用して説明する。</li> </ul>



資料1 子どもの成長について

- 「今までの活動を通して一度まとめてみたいと思います。画面をご覧ください」

### 5 子どもの成長にかかわる他者について考える

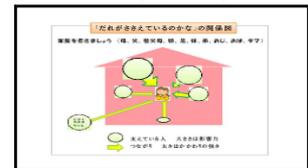
- 「子どもの成長にかかわる他者について考えましょう。初めは『家族の関係図』について描きます。描き方について説明しますので画面をご覧ください」
- 「それでは、ワークシートに、子どもの成長を支えている『家族の関係図』を描きましょう」

- 「次に『家族ではない他者』について考えましょう。描き方について説明しますので画面をご覧ください」
- 「ワークシートに、子どもの成長を支えている『家族ではない他者の関係図』を描きましょう」

### 6 子どもの周りには、成長を支える重要な他者がいることに気付く

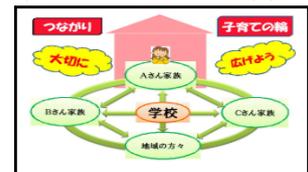
- 「本日の活動をまとめましょう。画面をご覧ください」

- 5 関係図の描き方（第1段階「家族」）についてパワーポイント（資料2）を活用して説明する。
- 6 関係図の描き方（第2段階「家族ではない他者」）についてパワーポイント（資料2）を活用して説明する。



資料2 関係図の描き方

- 6 パワーポイント（資料3）を活用して説明する。



資料3 子育てネットワーク

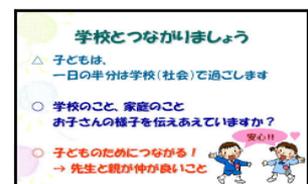
### 7 まとめ

- 終末
- 「本日の活動を振り返ってT2に感想を述べてもらいましょう。いかがでしたか？」

### 15分 8 参加者の体験をふり返り、今後について考える

- 「本日セミナーに参加してみたいかがでしたでしょうか、活動を振り返って学んだことや新しく気付いたことなど、感想をお書き下さい」

- 7 子どもの成長を共に支えていくために、学校と家庭がつながることがとても大切であるということをパワーポイント（資料4）を使って伝える。



資料4 孤育てしてませんか

- 8 時間内に書き上がらない場合には持ち帰って書いてもよいことを伝える。

## 子育て学習プログラム③

### 成果と留意点

#### 実践中のエピソード

活動1では、入学してからこれまでの子どもの成長について、一人一人が考え、それを基にグループで話し合う活動をした。一人一人に入学してからこれまでの子どもの成長について振り返った中では、「あらためて言われるとなかなか書けないな」というつぶやきが聞こえた。しかし、グループになって話し合う中で、「そういえばうちの子もそういうところ成長したかも」と気付いたり、「～ちゃんはこういうところが成長してるよ」と教えてあげたりすることができた。保護者の交流やつながりは、子どもの成長を支えるのにとても大切なことであることに気付ける有意義な活動になった。

活動2では、子どもの成長にかかわる家族と他者のについて考えた。子どもの成長を支えているのは家族だけでなくたくさんの方々を支えられていることに気付くことができた。子どもの成長を支えている他者の一人として、「先生」と書いてくれた保護者がいて、とてもうれしく感じた。学校と協力して子どもの成長を支える必要性について話をしたところ、「そうだよね」とうなずく保護者の方がたくさん見られ学校と家庭の連携の深まりを実感できる活動とあった。

#### 実践後の結果

保護者から、「もう保護者会はないのですよね、さみしいです」、「こういう保護者会であればまた参加します」、「先生方と触れ合えて自分の世界が広がった」などの話が聞けた。これまでにかかわりが少なかった保護者との交流、先生方と親しく話げできた喜びなど、子育ての輪が広がり学ぶことが多い保護者会になった。参加者は「来てよかった」という満足感を得たようである。

#### 実践上の留意点

入学してからこれまでの子どもの成長について、一人一人が考えた後に、それを基にグループで話し合う活動をしたが、その場で「グループになって下さい」と指示を出してもなかなかグループに入れない人がいることが予想された。そこで、あらかじめ小グループ（3～6人）ができるように意図的に椅子を配置しておいた。

今回の実践は、一斉講義的な保護者会になりがちな面があるので、活動1の活動に十分に時間をかけて実践することが望ましい。

# 保護者同士がつながること

## 子どもの成長について

みなさんに知ってもらおうこと

↔

みなさんから知ること

保護者の方々の交流  
" つながり ❤️ 大切に！

## お子さんの成長

こぼさず食べられるようになった

本を一人で読めるようになった

一人で読まれるようになった

一人で登校できるようになった

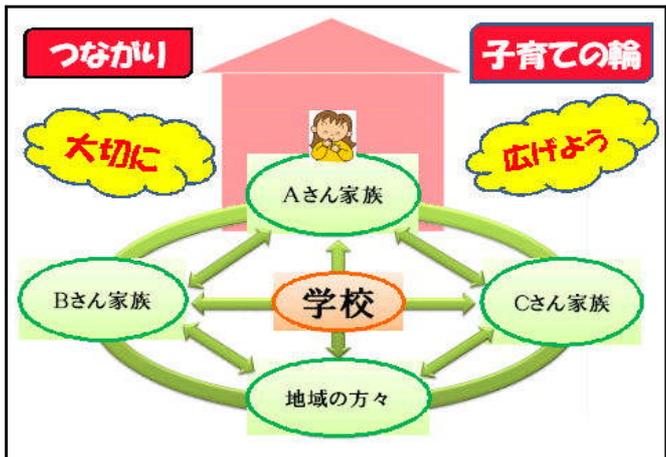
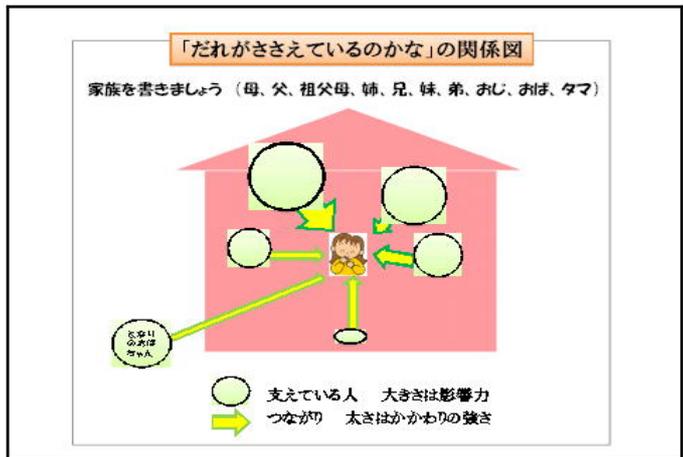
くつの左右をまちがえずにはけるようになった

みんな  
少しずつ  
成長して  
います

身じたくが自分でできるようになった

一人で登校できるようになった

# 子どもの成長を支えている家族と他者の気付き



# 学校と家庭の連携

## 学校とつながりましょう

- 子どもは、一日の半分は学校(社会)で過ごします
- 学校のこと、家庭のこと  
お子さんの様子を伝えあえていますか？
- **子どものためにつながる！**  
→ **先生と親が仲が良いこと**

## 保護者同士がつながること

ワークシート

名前( )

Q1 入学してからこれまでに、お子さんが「成長したな」と思うところを2～3考えて書いてみましょう。

※ 「気付いたこと」「感じたこと」など、メモするときにお使い下さい。

## 子どもの成長を支えている家族と他者の気付き

Q2 子どもをささえているのはだれでしょうか。下に関係図をかきましょう。

家族を書きましょう ( )

